

岩津ねぎだより

令和2年6月1日
岩津ねぎ産地協議会生産支援チーム

今年の発芽状況は概ね良好ですが、発芽後の高温の影響や灌水ムラなどによる、葉先枯れが各所で見受けられます。また、育苗箱にネットマールを敷いている場合は、過湿になりやすく、葉先が茶色く葉焼けした症状や苗が途中で倒れて消えていくといった立ち枯れ症状が見られています。

大阪管区气象台発表の1か月(5月23日～6月22日)の天候の見通しは、

今後1か月の近畿地方は、期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が多く、また、期間の後半は平年と同様に曇りや雨の日が多いようです。気温は期間を通して平年より高めで、降水量は平年並みか多い見込みとなっています。

1 チェーンポット苗の今後の管理

① 灌水の実施



今年は高温により根の伸長が悪く、育苗培土からの水分が十分に吸えていない苗が見られます。そのため、こまめに灌水をしても葉先が白く枯れていることがあります。(写真：上)

苗と育苗培土の状態をよく観察して、1日1回の灌水を実施して下さい。

ネットマールを使用している場合は、特に過湿状態になりやすいため注意しましょう。

(写真：下)

ネットマールを使用している場合は、1日1回以内の灌水を実施してください。



苗立枯病が疑われる場合は、ダコニール1000を散布しましょう。500倍で1回のみ使用できます。

② 剪葉の実施

- ・目的：苗を太くする、徒長防止、作業性を良くする。
- ・時期：播種後1ヶ月が経過し、草丈が20cm以上で倒伏が始まったときです。
- ・程度：12cm以下にしない。極端に刈り込むと太りが悪くなります。定植時は15cm以上を確保する。
- ・回数：生育状況を見て数回実施し、草丈15cmする。



③ 追肥の施用

播種後1ヶ月が過ぎ葉の色が薄い場合や現在生育の悪い苗には、液肥を500倍に薄め、1トレイ当たり500ccを施用し、その後、必ず灌水を実施してください。

2 地床育苗の生育と今後の管理

播種後の灌水を十分に実施したほ場では、生育は良好です。しかし、一部のほ場では、乾燥と水不足から発芽ムラがあり、葉先が茶色くなっている所があります。

- ①乾燥によるしおれや葉先が焼けている場合は、灌水する。
- ②播種床で密生している所は、草丈が25cmになるまでに、数回に分けて間引き作業を実施する。最終目標本数は、播き溝1m当り80～100本になるように作業する。
- ③播種後1ヶ月が過ぎ葉の色が薄くなれば、燐硝安加里 S604 またはPKセーブ 488 を、1a当り2kg散布する。急激な施肥は肥料焼けの恐れがあるため注意しましょう。

3 病虫害防除の実施

現在のところ害虫による被害はあまり見られませんが、高温・乾燥が続いており、ネギアザミウマ類等の発生が懸念されます。

また、梅雨入り後は、高温多湿の影響から病気の発生が予想されます。

今後は、予防を中心に病虫害防除を実施しましょう。

<近年発生の多い病害>

べと病の病斑 右は、霜状のかびの様子



さび病の病斑
赤い胞子が発生



疫病の病斑
不正形の白色斑



◎今後気になる苗床の病虫害対策

病虫害名	薬剤名	希釈倍率	使用時期等	使用回数
べと病・さび病	テーク水和剤	600倍	収穫14日前まで	3回以内
べと病	プロポーズ細粒水和剤	1000倍	収穫14日前まで	3回以内
疫病・べと病	アリエッティ水和剤	800倍	収穫3日前まで	3回以内
アブラムシ類、アザミウマ類	スミチオン乳剤	1000倍	収穫14日前まで	2回以内

注意) 農薬は、使用基準を守って使用しましょう。 ※詳細は、防除暦を参照ください

4 本田準備 (圃場がよく乾いている好条件の時に必ず実施する)

①排水対策の徹底

ねぎは過湿には非常に弱い作物です。本田の周りに額縁明渠等の排水溝を必ず設置し、排水対策を徹底します。

②改良資材の施用・耕耘

定植の1ヶ月前までに酸度矯正として、セルカまたは苦土石灰を100kg/10a BMようりん40kg/10aを施用し、耕耘して土を細かく砕いておきます。

(定植後の活着に大きく影響します。その後の生育・管理にも影響します)

<問合せ先>

和田山営農生活センター：672-4800 山東営農生活センター：670-7744
朝来営農生活センター：670-4341 朝来農業改良普及センター：672-6886